

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第73号 (2022. 7. 10-2022. 7. 17)

- ◆ 参加者 菊池洋勝 しまねこん、風池ゆういち、syusyui、むしめん
ママ、木野清瀬 crazy lover、水の眠り、達毘古、西脇祥貴、キン
ジョウ、輪井ゆう、式定住佳、西沢葉火、以太、石原とつき、立木由
比浪、雲上晴也、海馬、蔭一郎、ちゆんすけ、さとすい、藤井臯に
じむにじ、岡村知昭、落ちる星々、睦月ヨシ、鷺沼くぬぎ、玖、Rajini、
天やん、鴨川ねぎ、太代祐一、蜜、せば、城水めぐみ、児島成、馬勝
抹茶金魚、月硝子、めい、星野響、小沢史、東ころ、茶熊さへ、
MIKA、徳道かづみ、雷(らじ)、玖々泉ろか、Tanako、涼閑、雷軍侍
桔梗羹、日月星香、伽羅、思雨(スイ)、石川聡、夏野ネコ、風花(か
ごはな)、原点、ゆりのはな、宮坂葵哲、Ryu sen、たろりずむ、鷺
沼くぬぎ、Millieent/Neu、みや／水也、黒徳十、ニシカワ、夜想詩
人、日下晃、檜崎進弘、月波与生(七一名)

◆ 7・7詩、5・7・5詩

真夏日の東京なんて唯のトレモロ rajini
蘆茂る雨に瞑想するゴリラ 石川聡
蘆茂るねばつく風の二丁目 小沢史
月のした既読になつてさらに恋 東ころ
虹二重やさしい言葉の裏の裏 木野清瀬
寝癖がいつも合歡の花に似ていた 海馬
ミシンかたかたうる覚えのロシア語 海馬
青田道奨字金が返せない 馬勝
飛魚や空跳ねるとき息を止め 宮坂葵哲
新月やあなたにあげた資生堂 原点
掌であたしを飼つて金魚玉 風花
乙女座で圧力鍋はできている 岡村知昭

いたずらに版を重ねて十五才 西脇祥貴
来迎の千年前はとしまえん 西脇祥貴
寝たふりの君に SUIÇA をタツチする 太代祐一
ヒエツ！ 夢みる子は示談 太代祐一
肝臓の裏は鍵盤ハーモニカ 以太
かけはしが（ ）で閉じている流れ 西沢葉火
生返事誤解が誤解呼び暑し STUJYU
点滴の袋の日付皐月かな 菊池洋勝
全員が眼鏡をかけている暑さ 蔭一郎
教頭よおまえのせいで蘆茂る 蔭一郎
竹藪に消えたセックス・ピストルズ 蔭一郎
鍵かけたかな引き返す青田道 蔭一郎
巴里祭やなにもない日に「萩の月」 玖
道連れにしよう尻尾を見せ合って 城水めぐみ
奥歯にものが挟まったようなミスチル 海馬
星人と交信すべく傘広げ 鴨川ねぎ
ポテトサラダの技術者ぎらい 太代祐一
ポチという犬を探しているのです かづみ
あさがおもしろいにお 石川聡
わたしにはほぼ致死量の善意です ちゅんすけ
地球儀のくうきが抜けてみな笑い 海馬
譲るのは百歩以内だ青田道 しまねこくん
盆踊りにまぎれて峰打ち 石原とつき
雨の日は犬を埋めてもいいらしい 以太
ポツポツと金魚の吐息めく弱音 せば
故郷にエンドロールの夕焼けや 風池よういち
取り扱い注意スマホとバカ息子 crazy lover
雲隠れさみしい月を追いかけて 水の眠り
崖のうえ真実叫ぶピエロたち 達毘古
そんなにも痩せてしまったのかケーキ 輪井ゆう

雨しづくトタン奏でる島の宿 式定住佳
骨壺を飾る造花と万国旗 立木由比浪
宵山の人波おされ先斗町 雲上晴也
青鬼灯 あらこう見えて怖いのよ さとすい
青みがかった溜め息を吐く母艦 藤井阜
ツチノコのコスプレを脱ぐマトリョーシカ にじむにじ
ひらがなでかきたいことばがふつてこない 落ちる星々
利きすぎる鼻が産み出すエンディング 睦月ヨシ
信号の赤尾を引く路面は梅雨寒 天やん
詐称して水の呼び名の朽ちたさを 抹茶金魚
ワクチンにひと夜抱かれし暑さかな 月硝子
幾重もの蛹を脱いで虹になる 星野響
合宿の参加予定にバツ付けた 兎島成
指切りがカスタネットに挟まれる MYA
南米からベトナム経由の鮭かじる 雷
眠い朝五月蠅く響く蟬の声 玖々泉ろか
訣別を決めた精霊流しの夜 涼閑
半夏雨 平成の世も 去りにけり 電車侍
離れると思いが募るずつとした 茶熊さえこ
亡き妻が植えた茉莉花咲き続け 黎明
涼んでる端居に見える夏の月 日月星香
逢ひに行く合歓の木深く眠る頃 伽羅
焼酎で夕涼む空救いなし 思雨
飛魚になれない君の背をさする 海の内コ
掌であたしを飼って金魚玉 風花
冷蔵庫悲鳴をあげる野菜たち ゆりのはなこ
唐突にタイムラインを堰き止める Ryu_sen
付度という字にルビを振っておく たろりずむ
宛先の無き微笑みの夕端居 鷺沼くぬぎ
むなしさをしばらく波にまぎらわし Tomoko
一切をかなぐり捨てて滝の水 黒穂十

おわかり？と父が食む寿司投票日 ニシカワ
雨脚が強くなる度に心は浮いてゆく 日下晃
どこまでが宗教でどこから人殺し？ 月波与生

◆ 7・7、5・7・7・5以外の短詩

ツイッターに別れを告げんと思いつつ夜更けに探すスマホ
かな むくみんママ
パンダにはなれぬヒゲマの哀しみを獵友会に説くフィロソ
フィー キンジョウ
曇天の空間よりも手のひらのなま温かさ慈しみ 蜜
なかなかの独りよがりを詠みあげて「どんまい」もらう多
分あしたも めい
残念なその他大勢 砂浜の一粒としてもまれて生きる め
い
毒親のDNAは残って言葉も汗もなんだか臭い めい
星影のさやかな夜にささやかな言葉をささげ祈りをささげ
夜想詩人
夜半の月かたちばかりの涙雨ブルーグレーの空に囁く
みや

◆ 詩

難しき勉強本を選びたる
どれもどれとて易しく無くを
読むことで学生として知恵を得る
時間も限られ年老いるとき
いまならば学びを得しが叶うとき
ゆっくりでもよく進みゆきたい
(Millicent/Neu)

◆作品評から

ポテトサラダの技術者ぎらい 太代祐一

〜レシピはいろいろあるだろうが、ポテトサラダを美味しく作るのには技術ではない。道具でもない。そう考える人間がいるなら軽蔑をする。ポテトサラダを作るのはもちろん、根性である。(西沢葉火)

ポチという犬を探しているのです かづみ

〜犬を探しているわけではありません。名前を探しているのです。ポチという名前ならば、どんな犬でもかまいません。ポチと呼ばれば返事をしてくれる、そんな犬にもう一度会いたくて。(西沢葉火)

あさがおもしろいなおお 石川聡

〜人間は中途半端な死体として生まれてくる、と寺山修司は言った。アサガオは朝に咲き、そして既に死んでいる。鏡に映った顔も、また。(西沢葉火)

開いたら指開かなければ蛍 しまねこくん

〜「とべないホタル」という童話を思い出した。掌の中でゆっくり翅を開くのを見ているぼく。「ひらく」のリフレインで写生と心象を表している。(月波与生)

イタタマレナイをひろって口にいれ 石川聡

〜何故口にいれたのか？イタタマレナイからである。何故拾ったのか？イタタマレナイからである。真実を知りながら知らなかったふりをするのはホント、イタタマレナイ。

(月波与生)

来迎の千年前はとしまえん 西脇祥貴

くひらがなのとしまえんがいいですね。すべてひらがなでもよかったです。（檀崎進弘）

ミシンかたかたうる覚えのロシア語 海馬
くこれは足踏み式のミシンですね。（檀崎進弘）

父おやをかぞえるためのコーラ瓶 川合大祐
く作者にしては珍しい父の句。こういう句を読むと
（酔い夜ごと 童話集から 父消ゆる 酒谷愛郷）などが
思い起こされ現代川柳は地続きであることがわかる。（月波
与生）

手に取った本が逆さまのうちに読む 睦月ヨシ
く主人公が穴に落ちて真つ逆さまというシーンを描いた
絵本をとつさに開いてしまった。「あ、逆だ」と思い天地
を逆にして眺め、次のページを開いて気付く。
「あ、逆だ」（月波与生）

教頭よおまえのせいで蘆茂る 蔭一郎
く寝返りがどちらの意味か解りました。（檀崎進弘）

主文から先に読み上げ系男子 以太
く主文とは「被告人を〇〇の刑に処する」という刑罰の
言い渡し。結論が早いということだが逆に主文後回しとな
ると「死刑」に処されそうで怖い。く系男子のふわりとし
た着地がいい。（月波与生）

どこまでが宗教でどこから人殺し？ 月波与生
くはらわたのどのあたりからくそとよぶか 渡辺隆夫
を思い起こしました。（石川聡）

初蟬の好きな木嫌いな木図鑑 蔭一郎

〜図鑑、という川柳を最初に書いた句はどれなのかわかないが、以降すべてが二番煎じかという面白いものは面白いし、自分が「面白い」と思ったらどんどん書いてみればいい。(月波与生)

孤独死がふえる団地の公文式 馬勝

〜少子高齢化を象徴する装置としての団地。定理でもあるかのように増え続ける高齢者の孤独死。これらのことを3文字で言い当てた「公文式」が効果的です。(月波与生)

鍵かけたかな引き返す青田道 蔭一郎

〜強迫観念ですね。わたしも確認したにもかかわらずまた引き返します。(檜崎進弘)